フォーラム「扇町マナビバ」セッション　ダイジェスト

コーディネータ / 福田知弘
NPO 法人 もうひとつの旅クラブ 副理事長
大学准教授

＜それぞれの活動＞

■岸上純子さん　建築家／扇町公園愛好家

○扇町公園の特徴と魅力
・地域の人、近所に住んでいる人が多く訪れている
・友達と約束しなくてもここに行けば誰か友達が遊んでいる
・起伏があるので、いろんなところが自由に使える
・いろんな顔がある場所
・いろんな関わり方が生まれるような場所
・子どもたちが一気に集まる場、本当に自由にできるいろんな包容力のある場所

○公共空間の使い方の魅力
［case 中津中央公園／中津ぼんぼりまつり］
・祭ができるおもしろさ
・イベント会社が入らなくても、市民の力でやることができる

［case うめきた楽市楽座／ウメキタホッププロジェクト］
・都市の中の農園
・人が関われる空き地の中の農地みたいなもの
・人が関わりやすく、いっしょに管理もできる場所
・公共空間でビールをつくる愉快、ホップを育てる「過程」を共有することでつながりが生まれ、コミュニティが広がることを実感した

［case 中津商店街／ツキイチ屋台］
・路地裏空間がたくさんある、下町の風景が残る場所
・公共空間の使い方
・屋台の可能性

○「人ありき」だけじゃない装置や設え（ガジェット）の可能性
・機能的ではない、実は無駄なものの可能性
・いろんな細かい設え、装置があれば公共空間も楽しくなるのではないか

・公共空間、公園にあるともっと楽しい場を「つくりかたの方法論」として考えたい
・機能的なものだけではない、なくてもいいけどあると生活や暮らしが楽しくなるもの

○公共空間（扇町公園）ってこんなふうに使えたらいいな
・この公園に固定的な商業施設を入れることは似合わない、余白がすごくある場所が「いいな！」
・無駄かもしれないけれど、みんなが関われる余地があるような場所！！

■武田重昭さん　ランドスケープ／大学准教授

○都市空間の波及効果
［都市公園の意義を図る効果］
◆存在効果：公園が利用されなくても発揮される効果
◆利用効果：利用することではじめて発現する効果、公園を利用すればするほど高まる効果、公園内の閉じた空間だけで発現される効果
◆波及効果：利用することではじめて発現する効果、地域で発現される効果、日常生活のなかでわたしたちの暮らしに対して波及される効果

―「利用促進」「過大な利用者」だけが公園の存在証明か。
―「普段のわたしたちの日常生活や周辺の地域のため」という命題を忘れてはならない。
―「観光地的な賑わい」にすべての価値を置くのではなく、コミュニティの形成・シビックプライドの醸成にもしっかり焦点を。

○賑い至上主義を越えて
・最近の公園は、利用効果をいかに発現させるか、ということにこだわりすぎているのではないか
・公園の本質的な意義は、外から人を集めることではなく、ある昼下がりにゆっくり過ごせることではないか

［欲望のエデュケーション／原研哉（デザイナー）］
・デザインをすることは、人々に対して人々の想いを変化させて、社会の欲望をエデュケーションしていくことではないか

○都市のベクトル
［岡昇平（仏生山温泉）］

・過度に盛り上がったものは、いつか必ず盛り下がるのではないか
・今日より明日が何かしらよくなっている感覚が持てているまちのほうが、最終的に魅力的なのではないか
・過度な盛り上がりや過度に消費者を呼ぶようなまちづくりではなく、「そこに住む一般市民の方々が生産者」となってまちの魅力を付加していく、時間をかけたまちづくりのほうが、魅力的なまちづくりに近道なのではないか

○コロナ禍のパブリックライフが都市を変える

［グランド・ジャット島の日曜日の午後／スーラ］
・人々で賑わってはいるが、どの人も目線を合わせることがなく、さびしい都市の孤独を味わっているという評価もある

［緊急事態宣言中の中之島公園］
・それぞれが思い思いに過ごしているが、そこには一定の間隔と距離感が自覚的にとられそれぞれの人たちは豊かに過ごしている
・その様子は、わたしたちが得た新しい都市の魅力ではないか

［バルコニー／マネ］
・都市とは、同じ時間と場所を共有しながらも孤独を味わえる場所

［緊急事態宣言中の靭公園］
・ただ単に賑わって楽しいだけではない、もう一つの高質な過ごし方があるのではないか

［離散的空間／原広司（建築家）］
・離散的、離散集合
・一人ひとりがさびしい状態ではなくて、ある種の連帯感・共有感がある
・それぞれ自立して「そこにいる」

○協働と共同

◆協働：同じ目的のために、力をあわせて働くこと→これまでの行政用語
◆共同：ふたり以上の人がいっしょにすること、使うこと→これからのムーブメント

―協働から「協同」へ。一人一人の本質が現れるかたちで、連帯感を持てるものが大事なのではないか。これからは、より「共同」を大切にしたい。

○シビックプライドの先にあるもの

［都市のイメージ／ケヴィン・リンチ］
◆都市のイメージアビリティ：ミーニング、アイデンティティ、ストラクチャー
◆今までの都市づくり：アイデンティティ、ストラクチャー（ハード＋客観性）
これからのまちづくり：ミーニング（主観性・主体性）
◆今までとこれからをつなぐもの：シビックプライド

―キーワードは、都市と人とのコミュニケーションのポイントをうまくデザインすることではないか。
―シビックプライドを持つことで、市民がいろんなことにチャレンジしてみたり、都市に関わりたいと思う市民の能力が向上していくこと、それを持った都市はどういう風に変わっていけるか。それらへの評価が必要。

○扇町マナビバ
・この新しい扇町マナビバが市民に対して、どういう風な能力向上を与えられて、都市に対してどういう変化をもたらせるのか

■堤道明さん　（一社）セレッソ大阪スポーツクラブ理事 長居事業本部 本部長

○公園の公民連携の現状
［case 大阪城公園（大阪市当該部局当時の経験）］
・本格的な民活導入のさきがけで、天守閣をはじめとして大阪城公園で上がる収益を一元化し公園全体の整備にも関与できるスキームを確立した、まさに「歴史から未来へ」つなぐ試みだった
・そこでは、これまでになかったサービス機能を民間活力によってつくってもらう仕組みをキーワードにした
・ただし、「この公園をどうしたいのか」という「歴史から未来へ」の問いかけには、公民学で協議や実証を重ね、「あり方を共有」する手間を怠ってはならない
・ところが、現状は「観光消費」させることに重きを置きすぎて、ここの歴史や文化とは無縁の大阪城公園が散見されるので心配している

［case 天王寺公園］
・P-PFI モデルの先進事例だが、最近は民間ビジネスの色が濃くなりすぎて、やや公民のバランスが悪くなってきているのではないか
・隣接する動物園や美術館など、「文化レベルの拡張性で人を惹きつける」ことのできる

資質を持っているのが「この公園」の何よりの強点だが、（大阪城公園と同じく）観光集客に迎合しすぎて、公園の中に商業ゾーンが拡大しているだけのようにも見える

［case 長居公園］
・現在計画中のパークマネジメントでは、モデル的かつ象徴的な取組みのひとつとして、この公園が保有する歴史的な価値や特徴を活かし「新しい都市農業」を「仕組み化」し、周辺のまちづくりにつなぐ試みを位置づけている
・現実的には、様々な制約から「積み残された仕組み」が少なからず存在するが、公園とまちがつながって、新たなコミュニティを生み出す試みを間断なく継続させたい

〇扇町公園
・スグ近くの「家」からいつも眺めている
・日本一長い商店街が隣接しているので「いまの賑わい」と、この公園が保有する「歴史性と文化性」が絶えずせめぎあっているような「面白み」がある
・商業は天神橋筋商店街にお任せし、公園はそれをサポートする立ち位置を忘れるべきではない
・そのような視点から、敷設会館などの公益施設やキッズプラザの学びの機能に連携した「ここならでは」の「新しいなにか」が考えられるのではないか

■泉英明　NPO 法人 もうひとつの旅クラブ 理事／ハートビートプラン

〇大命題としての課題
・「行政が大きな企業に運営を任せている事例」「住民が完全にボランティアで運営している事例」のいずれかしかなく、その中間がない

［case 9 つのまちなかの広場的空間（豊田市）］
・使われていない場所を使うところからまちをおもしろくする
・2 年間いろんな使い方、使われ方を試して「使う主体」を発掘した

［case 新豊田駅前広場］
・「ゴール設定」として、目的性の高い空間にリニューアルし、テーマ・コミュニティによる利用を誘発する。つくり過ぎずハーフメイドするイメージ
・ここでやりたいことがある人、責任持って運営・管理する人（コンテンツホルダー）の導入検討。これらのことで、できあがったあとも主体的に運営に関わっている
・「禁止事項」ではなく「できること」で運営するイメージ

［case 玉手山公園］
・地元ボランティア団体（森の会）による運営
・公園愛護会よりは少し先にいっているディープな使い方
・将来にわたって、みんなで楽しめるように取組んでいる

［case NY 市の公園］
・公園局が民間企業・市民・住民ボランティア・※コンサーバンシーなどを公園ごとにコーディネートし、育成するような「仕組み」が伴っている
・※コンサーバンシーでは、自分たちで資金集めしたり、飲食店を運営したりしている。
※事務局注記：概略的には、特定の公園運営を目的に、市から毎年管理委託費を受け取り、かつ「資金集め、企業や市民からの寄付、公園内での飲食店やプログラムによる収入などを得て公園運営を行う団体」を指す。自らによるアイデンティティーで公益性を担保する能動的な制度。いわゆる「指定管理制度」とは異なり、日本でのなじみは薄い。

○扇町公園
・「ごちゃまぜのエリア」にあるので、NY 市の公園のような多様性を許容するパートナーシップの組み方があっても面白いのではないか

＜ヤリトリ・セッション＞

■コーディネータからのキーワード提示（以下■部はコーディネータによる）
◆経済性では測れない公園の価値
◆空間のもつ重要性
◆回遊性と素数性をどういう風につなげていくと面白い空間になるのか

［岸上さん］
◎「最低限の設え」に、余白が残っていることが大事なのではないか。
◎公園に施設経営的概念を持ち込み過ぎると、「経済性 0」だと維持管理等がまわっていかないという矛盾が生じ、公園が公園でなくなる矛盾が生じる。
◎今後の公園の在り方については、公園の維持管理部分を「楽しみながら自分ごとのようにできること」が、キーになる。

■「ウメキタ」ホッププロジェクトでは、みんなのやりたいことをどうまとめてる？

［岸上さん］

◎どこにでもある都市農園では特徴がなかった。

◎「自分たちしかやっていない」が、なにより大事なのではないか。

［武田さん］

◎経済は持続可能性を担保するうえで、すごく重要だが、その概念を公園に持ち込み過ぎるのは、どうか。

◎一部の人たちのためにあるような消費行為の拡大では、公園という公益性の観点を持続的に維持できるかが問題になるのではないか。

◎うまくつなぎ合わせることで、空間の持っている価値みたいなものが再度高まっていく、そういう循環を生み出していくことが大事ではないか。

［堤さん］

◎いろんな施設があるので、行政とともにプラットフォーム化して、ここに関わってくる人がどんどん寄ってきて、多様性を担保することが必要。

◎今後の公園の在り方については、周辺の多様な生活者が「公園の未来」に興味を持つかが課題。

［泉さん］

◎まちの性格は「ごちゃまぜ」なのに、近くの人と広域の人たちが出会う仕掛けがない。

◎いろんな人が使っているけど、コミュニティの重なり合いが見えない。しかし、そこが公園の本来の価値でもあるように思える。

■新豊田駅前広場では、「火を使うこと」をどうやって納得して認めあったのか？

［泉さん］

◎最初に「ちゃんと使うこと」をみんなで体験した。

◎いくつかの団体が使ったり見たりしていていくと、荒らされないような「目」が育つ。その「目」によって、抑制が緩やかに機能する。

■新豊田駅前広場では、フェンスで囲うなどの安全対策が取られていないようだが？

［泉さん］

◎不必要に区分けしてしまうと、使い方や使われ方が限られてしまうので、なるべく作りこまないよう、ハーフメイドにデザインした。

■人を巻き込んで公園をつくるとき「苦労したけど、結構よかった」ことは？

［武田さん］

◎市民のみなさんへの最初の呼びかけで意識しているのは、「どんな公園をつくりたいか」ではなく、「公園ができたら『あなたは何をしたいか』」ということについて。

◎「公園でなにかしたい」ことがある人が集まると、自分も参加して、貢献できる「なにか」について、ものすごく意見が集まる。

◎そういう人たちが集まり、そこでチームが生まれ、公園ができる前から公園ができた後のイメージが生まれてゆく。だから、公園ができた瞬間にはすでにそういう人たちがたくさんいて、活動が始まる状況になっている。そのような道筋がとても大事。

◎今回の「まちづくりピア＝扇町マナビバ」でも、できる前からそういう人たちが集まっている状態をつくれるかどうかが鍵となる。

■「やりたいことがある人が集まることが先」ということでしょうか？

［泉さん］

◎やりたいことがある人が誰かわからないし、普通にやってしまうと「要望市民」だけになる懸念もあるように思う。

■これからの民間活力による公園利用とは

［岸上さん］

◎消費することしかできない「使い手」が新たに発生してもつまらない。今日の議論でイメージされたような「市民の側にも活動を生み出す人たち」がたくさんいることに、行政はもっと目を向けるべき。

◎「かかわりシロ」があると、人はどんどん集まってくるのではないか。

◎その「かかわりシロ」について、きっかけとなる場所があればいいのではないか。

■「扇町公園の可能性」への注目点とその共有（まとめ的に項目化）

◆公園内の余白 / 消費行為との距離感 / 表現者の存在 /「かかわりシロ」の重要性

◆主体的に「かかわれる人・グループ」に注目する。

◆地域密着と同時に、地域を超えることについても重要度が高い。そのような視点から見たステークホルダー（後ろ向きではない「利害関係者」）と公園で遊びたい。